

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200143		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	だいこんの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719番地1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2190200143-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るく家庭的な雰囲気の中で その人らしさを大切にしましょう」を理念に入居者様と職員が一つの家族のように明るく、笑顔の絶えない日々を送れるようにケアに取り組んでいます。
その人らしさの中では ご自分の好きな事、やりたいことに取り組める個別レクリエーションを、また入居者様すべてが笑顔になれるレクリエーションを考えて行っています。それぞれの能力に応じたお手伝いや手作業を職員と一緒にすることによって一人一人が役割や存在意義を持てるよう家族様からの要望も取り入れながら行っています。各担当者は毎月のミーティングの前に家族様・ご本人様に要望をお聞きして、職員間同士でも情報を共有して、より良い生活が出来るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気を大切にして、その人らしさが感じられるように事業所の日課はしらず、利用者が希望する自由な生活がおくれるようにしている。コロナ禍で容易に外出ができず、一人ひとりの歌を決め穏やかになってもらう、花を生けてもらう、カレンダーに数字を書いてもらう、家事手伝いをしてもらう等レクリエーションも工夫しながら、利用者のできる事ややりたい事が継続できるように支援している。毎月、事業所での様子を記す近況報告と写真を送付時に返信用封筒で意見を求めたり、担当者が家族に電話し意見や要望を聞いたり、イベントは家族が参加できるようにして家族との関係を大切にしている。職員は温かく和やかな雰囲気があり、利用者にも居心地良い環境を提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」を理念として、玄関先に提示して、日々職員や家族様の眼にとまるようにしています。理念に沿った日々が送れるよう業務を行っています。	居間に理念を掲示し、ミーティングで唱和している。家庭の延長である事業所で人生の先輩である利用者に対して、態度や言葉遣いに注意している。その人の良いところを伸ばし、その人らしく過ごせるように話し合いながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為本年度は各種行事を自粛しておりますが、例年度は地域の方もお呼びしての流しそうめんやふれあい祭りと言った事業所の行事を行っています。	散歩時に会話しマッサージ機、野菜、花や手作りマスクをもらう等住民との交流がある。職員が地域行事に参加し相談にのっている。コロナ禍でイベントやボランティアの来訪は中断しているが、行事案内は地域を1軒ずつ周り声を掛けていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190200143-00&ServiceCd=320&Type=search	自治会に加入し、地域の行事にも参加させて頂いています。本年度はコロナ感染予防の観点から自粛になっています。認知症対応型共同生活介護という点から地域の方がお話を聞きにみえる事もあり、丁寧に説明をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を目的に開催させて頂いておりますが、本年度はコロナウイルス感染予防の為、行政からの指示のもとに開催しています。家族様にも出席頂き、状況報告とご要望をお聞きしてサービスに取り入れています。	コロナ禍で現在は書面会議だがメンバーや家族も個々に意見を聞いている。地域の交番が参加し防災や行方不明者発生時の助言を得ている。開催日の都合を事前に聞き、メンバーが参加しやすい曜日や時間にしていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご出席頂き、ご意見やご助言を受けています。本年度はコロナ関係における指示や指導を受けています。又事故報告や身体拘束廃止に関する委員会報告書等も速やかに報告させて頂いています。	コロナ禍での対応策や制度改正等については、メールや電話で情報を得たり指示を受けたりしている。書類提出時は市担当者に事業所の実情を伝えている。介護相談員を受け入れている。コロナ禍で市主催の会議や研修は中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全入居者様に対して身体拘束等はしていませんが3か月に1度は身体拘束検討委員会を開催し、又事業所内研修においても身体拘束についての研修を行っています。職員一人一人からも意見も聞きながら、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束廃止基本指針を定め、委員会を定期的に開催している。利用者の行動を制止するような言葉遣いにも注意している。玄関に来る人には側で寄り添い話を聞いている。ミーティング時に身体拘束について確認しているが、明確な研修ができていない。	身体拘束となる行為や緊急やむを得ない場合の定義のみならず、様々な場面での考え方や対応法等について研修を実施し、更なる理解を深める工夫が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修においても虐待の定義や実例等を学び職員間でも言葉使い等注意し合って、虐待の防止を徹底しています。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在当施設には該当される入居者様はおられません。必要となった時の制度・機関等については把握しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に当たっては事前説明でも十分にお伝えし、契約時には重要事項説明書・契約書等について全て読み上げ、説明し、同意を頂いたうえで契約させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族様にもご出席頂き、ご意見・要望をお聞きしています。又毎月のミーティング前には入居者様、家族様に要望をお聞きして、職員一同が共有できるようにしています。	ガラス戸越しの面会時に聞いたり、毎月、担当者が家族に電話し要望や意見を聞いたりしている。事業所での様子が知りたい要望に送付写真の枚数を増やし、利用者の足腰が弱らないように体操を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ミーティングを行い、その場で職員からの意見・提案・要望を聞くようにしています。それ以外にも職員からの要望や相談事があれば随時聞く機会を設けています。	職員からの要望や提案は書面で提出し、ミーティングで検討している。些細な事は業務内に管理者に言える関係にしている。日常の物品購入及び洗濯機や乾燥機の買い換え希望を叶えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員に適した就業時間に合わせた勤務表を作成。急な変更にも柔軟に対応している。又職員同士の協力体制を作り、働きやすい職場作りをしている。処遇改善加算における査定も設け、職員のやる気に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、グループミーティング時に社内研修を実施。年間の研修計画も立てている。社外研修についても職員の希望に添うよう、勤務表を考慮して作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他の事業者との交流で勉強会やネットワーク作りを行い、介護支援専門員は居宅介護支援事業者連絡会に参加し、研修等の機会を設けている。介護職員にも勉強会等への出席を勧めている。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での入念な聞き取りやセンターシートを活用しての本人の思い、家族の思いを丁寧に聞き取り、安心して暮らしてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接での聞き取りや施設見学の折などに家族様等の要望を聞き、当施設での暮らし方の説明等を行い、不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で本人様・家族様の要望もお聞きしつつ、その時に必要となる情報を正確に提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様に出来る事をして頂くことが自立支援につながる事なのでそれぞれの能力に応じた仕事を一緒にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウィルス感染予防の為、自由な面会や外出が出来ない状況ですが、その分家族様にはきめ細かい生活状況の報告を行い、安心して頂くと同時に必要な支援をお願いし、協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状ではコロナウィルス感染予防の為、自由に来て頂ける状況ではありませんが、これまではなじみの方の来訪や面会もさせて頂きました。	現在は事業所での親族や友人の面会、家族の協力を得ての自宅・喫茶店や買い物に行く等、馴染みの人に会うことは中断している。家族の声が聞きたい人には電話で話してもらい、年賀状の宛名は職員が書いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性や特技等も意識しながら利用者様同士が協調し合い、楽しく暮らして頂けるように支援している。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人様・家族様との関係を大切にしています。いつでも相談、助言等できることをお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティング前に各担当者が本人様より暮らし方の意向ややりたいことなどをお聞きし、出来る限り反映している。	その人に合わせた言葉で、ゆっくり尋ねて思いを聞いている。夜間帯や入浴時の1対1になる時の話から把握する人もいる。飲み物の種類はボードに書き、指さして意向を聞いている。生活歴から得意な事を推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にセンターシートに記入してもらい、その後も本人様や家族様の言葉の中からそれぞれの思いを受け止めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や朝夕の申し送りの中で情報を共有し、特に健康状態などの重要な事項は別に連絡帳に記入するなどして現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ミーティングの場で本人・家族の意向や要望を把握して、必要なサービス内容を見直し、介護計画書を作成している。	本人の出来る事とやりたい事を基に家族の希望も入れて介護計画を作成している。毎月、担当者が本人と家族から意見や要望を聞き、気づきや状況変化は赤字で書いた介護記録も参考に、ミーティングで検討し必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	きめ細かい介護記録の作成、朝夕の申し送り、連絡ノートによる情報の共有を行い、その人らしい生活ができるよう介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの能力に応じた食事形態や入浴方法、日々の介護の仕方を事業所全体で見極め、その人の状態に添ったサービス提供ができるよう努めている。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではコロナ感染予防の為実施できていないが近隣の喫茶店や美容室の利用を本人・家族の希望に添うよう実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により協力医の往診を受けて見える方もおられますし、入居前からのかかりつけ医に家族同行にて受診されている方もみえます。	入居時に家族の希望で協力医に変更する人が多い。かかりつけ医に家族が同行時は、口頭又は書面で日頃の様子を伝え、受診後に報告を受けている。歯科の訪問診療を利用している人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師により利用者の状態変化を把握、指示を受けている。夜間等不在時にも電話で報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には病院を訪問し、担当医師等への情報提供をし、現状報告を受け、退院に向けたカンファレンス等に出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは施設としては行っていませんが、本人・家族等の要望を聞き、施設としての方針を説明しています。	入居時に看取りは行ってないと事業所の方針を説明している。状態変化に合わせて、職員や家族とも話し合いながら方向性を確認している。事業所として医師の指示を得て、できる範囲での支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車要請時のマニュアル作成、ヒヤリハットの作成と検討を通して事故発生を予防し、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。7月28日に夜間想定火災訓練を行った。	市の総合防災訓練に職員が参加し避難場所の確認をしている。夜間想定も含めて避難訓練を実施し、時間計測し反省点を話し合っている。水、食料品やオムツ等を備蓄している。コロナ禍で住民への協力の呼びかけができていない。	非常時には地域の協力は不可欠となりうる事を認識し、近隣に協力を要請していく姿勢が望まれる。

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けで一日を過ごして頂けるよう、朝礼時に声かけし、職員間でも言葉使いに注意し合えるようにしている。	人生の先輩としての態度で接し、特に言葉遣いには注意している。利用者は〇〇さんと呼んでいる。トイレ誘導時は、耳元で小声で声かけしている。居室入口の表札は掲げず不安な人には誘導している。写真掲載は同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で出てきた本人の思いや希望を実現できるように努め、又本人が自己決定できるようにレクリエーション等への参加もお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課等は決まっているが、当日の利用者様の体調や気分により、参加・不参加の決定はご自身にお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分の着たい服や好きな服を着て頂いていますが認知症の進行で自己選択・自己決定が困難な方には職員の支援によりおしゃれが楽しめるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな料理や食べたい物を聞き、誕生日のメニューにしたり、行事食に取り入れています。食事形態も能力に応じて食べやすい工夫をしています。料理の下ごしらえや後片付けも手伝ってもらって職員と一緒にしています。	プランターで栽培した野菜を使い調理したり、食べたい物を聞き献立を変更したりしている。皮むき、洗い物、食卓拭き、ケーキの飾り付けやおやつ作り等のできることをしてもらっている。職員も席につき一緒に会話しながら楽しい食事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を介護記録にて把握し、特に水分補給については1時間おきの提供やレクリエーション・共同作業の後などに提供するなどして十分にとって頂けるようにしている。好き嫌いのある方には別メニューでの提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、夕食後には義歯洗浄、管理を行っている。歯ブラシ・コップは毎日消毒し、清潔に留意している。かかりつけ歯科医の往診も受け、助言等も受けている。		

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	きめ細かい排泄チェック表に記入し、排泄パターンの把握や適切な誘導を心がけている。夜間、ポータブルトイレ使用を希望されている方には設置し、清潔な管理をしている。紙パンツ使用の方が布パンツに移行された例もある。	その人の排泄パターンに合わせて、日中はトイレ誘導している。夜間のみポータブルトイレ使用する人はいるが、外すタイミングを職員で話し合っている。オムツ使用者はおらず、パッドを検討しながら自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を1時間おきにする、野菜の多い食事の工夫等、便秘予防に努めている。以前より便秘の方が少なくなった。手足の運動を取り入れたレクリエーションも実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様全員の希望通りの入浴は難しいですが、公平性も重視しつつ、体調に合わせて入浴できるようにしています。	好みの入浴剤を使用し、湯温を調整し順番にも配慮している。希望があれば毎日の入浴もできる体制がある。職員と利用者が1対1となる為、ゆっくりと会話できるようにしている。菖蒲・柚湯等で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、特に不眠の訴えがあるときには夜勤職員がリビングで一緒に話をしたり、テレビを見て落ち着いてもらっています。日中も本人の状態に合わせて昼寝が必要な方は休息できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設内看護師と医療機関、薬剤師が連携しながら情報交換している。服薬に関しては間違いの無いよう仕分けし、二人で確認するなど服薬間違いの無いように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーションと共に個々の個性や能力にあったレクリエーションを計画し、楽しみを持ってもらうようにしている。又個々の能力に応じたお手伝いもお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度はコロナ感染予防の為日常的な外出支援はできていないが通常は本人・家族の希望に添って散歩や喫茶店の利用、誕生日の外出行事等も行っている。感染が縮小すれば安全な形での実施を検討する予定です。	コロナ禍で自由な外出はできないが、車窓から紅葉や景色を眺めドライブを楽しむ計画をしている。実施前に現地を下見し行程やトイレの確認をしている。洗濯物干しやプランターで野菜作り、ベランダで焼き肉や流しそうめんを食べる等外気に触れ気分転換できるようにしている。	

グループホームだいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の利用者間での金銭トラブルや職員が盗ったなどの疑念が生じないよう家族様にも説明し、了解を頂き、施設内では個人的に金銭所持しないようお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方が3名、家族様にも了解を頂いて好きな時に使用できるようになっています。また希望があれば家族様との電話の受け渡しも行っています。手紙は必ず利用者様本人にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かで清潔な環境づくりと居心地の良い空間を作るよう季節感あふれる壁面飾りやカレンダーの製作等も利用者様に協力して頂いている。本年のように暑い夏には適切な温度で暮らせるよう冷房の管理や空気の入替えをしっかりと行っている。	季節の飾り物や手作りカレンダーを掲げ、観葉植物を置いている。テーブルの配置や席を変えて気分転換し、イスには職員手作りのカバーを掛けている。空気清浄機を置き日に3回換気し、利用者もマスク使用し手に触れる場所は消毒し感染予防に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席では同じ人ばかりと話をすることの無いよう時折席替えをしている。又ソファー席では自由に座ってもらい、だれとも会話が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や使いやすい衣類ケース等を持ってきてもらい、本人様が分かりやすく暮らせるようにしている。利用者様にも参加してもらい季節感の溢れるカレンダーの製作やご本人の塗られた塗り絵などを飾っている。	使い慣れた寝具類、TV、衣装ケース等を持ち込み、自分の作品、書道、感謝状や誕生プレゼントの色紙等を飾っている。衣装ケースは本人が使いやすいように引き出しごとに表示している。ベッドに地藏さんの絵を飾っている人もいる。温湿度計を置き居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室周囲には手すりの設置とテーブルや椅子の配置、ソファの配置など安全第一に考え、環境作りをしている。見守りが必要な利用者様には見守りや介助をしている。		